



令和元年 (2019年) 9月4日(水)
No. 15006 1部370円(税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会
東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)
郵便番号 104-0061
[電話] 03-3535-3052 [FAX] 03-3567-4671

近畿支部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4
(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆成長戦略に必要な経営理論《知財版》66…(1)

☆特許庁 総務部長 審査業務部長
審査第四部長 審判部長就任挨拶 ……………(8)

成長戦略に必要な経営理論《知財版》66

知財と格差(その6: 格差を作るのも知財、格差を埋めるのも知財。現実的な楽観主義者になることが次世代の繁栄に繋がる)

正林国際特許商標事務所
所長弁理士 正林 真之

1. はじめに

「我、鳥獣に非ず」

古代中国のかつての覇者である秦。その強さは現在も語り継がれており、その国王であった政が「始皇帝」を名乗ったことから、中国の歴史上の帝国の歴史が築かれていく。この秦の宰相であった李斯という人物が、彼の故郷を後にしようとしたときに、その師匠から今後の身の振り方を尋ねられた時に発

した答えが、かの有名な「我、鳥獣に非ず」の一節である。

その内容は次のようなものである。すなわち「時期を掴めばゆるがせにすることなかれ」と言われています。・・・地位も無く財も無き身でありながら、この機会を掴もうとしない者は、目の前の餌を喰うことしかできぬ鳥獣と同じです。人間として出世する機会があるのに出世の努力もせず、貧乏に甘んじ、



特許業務法人 三枝国際特許事務所

大阪オフィス

〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目7番1号 北浜TNKビル
TEL: 06-6203-0941(代) FAX: 06-6222-1068 e-mail: mail@saegusa-pat.co.jp

社員・副所長 中野 睦子*
社員・副所長 菱田 高弘*

化学・バイオ部

宮川 直之
淀谷 幸平*
東野 匡容*
河合 永文*
難波 泰明
森垣 善行
岩澤 朋之*
西橋 毅

機械・電気部

鈴木 由充
木村 豊
植田 慎吾

商標・意匠部

松本 康伸*
青木 寛史

新田 研太
鶴 寛
奥山 美保

小川 雅加美*
上嶋 一美

SAEGUSA & PARTNERS

代表社員・所長 林 雅仁*
社員・相談役 三枝 英二*

東京オフィス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-8-1 虎の門三井ビル9F
TEL: 03-5511-2855 FAX: 03-5511-2857 e-mail: tokyo@saegusa-pat.co.jp

社員・副所長・東京オフィス所長 斎藤 健治
社員・副所長 岩井 智子

化学・バイオ部

藤田 雅史
池上 美穂

商標・意匠部

田上 英二
中村 剛*

吉川 麻美
羽鳥 慎也



*特定侵害訴訟代理可能

www.saegusa-pat.co.jp

世間に背を向けて富貴を恨み、うぬぼれて高潔とおさまっているのは、人間の本性に反するものです。」というものであった。

要は、目の前にチャンスがあるのにそれを掴もうとせず、そうした努力もしないのに自らを清貧と言ひ、そのチャンスを掴んで成功したものを疎んで、自らを高潔と自惚れているのは、人間の本性に反するというものである。確かにそれはそうだろう。けれども、特に弁理士の業界では、大事務所を作った弁理士を“商売人”と言って蔑む傾向がある。ここで、あえて言うまでも無く、“商売人”というのは「弁理士として大した実力も無いのに、ただ商才に長けているだけの軽蔑されるべき人物」という意味である。

言い方を変えれば、「商売の上では負けてしまっているかもしれないが、弁理士としては自分のほうが上」という意味になるだろうか。とにかく、経営上手と言われている弁理士に対して、旧来型の弁理士からの風当たりは強烈なものがある。これは、第三者から見れば、単なる“ひがみ”や“ねたみ”ぐらいにしか見えないのであるが、批判をする当の本人は、いたって真剣である。真剣に「自分のほうが正しい」と思っており、「チャンスを掴む努力もしていないのにも関わらず、自らを高潔と自惚れている」などとは思ってもいない。

ここで、名画である“シックス・センス”という映画の有名な一場面には、「死んだ人間」の特徴として、「“死んだ人間”というのは、自らを死んだとは思っていない」、「世の中の全てのものが、自分にとって都合良いように見える(They see they want to.)」ということが挙げられている。これは本当に恐ろしいことであるが、事実だ。

「呼吸をしていれば生きているというものではない」ということになれば、実際には「既に死んでしまっている」人間の何と多いことか。実際、弁理士会館に行けば、そういった「ただ呼吸をしているだけで生きていると勘違いしている旧来型の弁理士」を、頻繁に見ることができる。

けれども、「世間に背を向けて富貴を恨み、うぬぼれて高潔とおさまっている」旧来型の弁理士に、「商売上手」や「経営上手」を否定する頑固な弁理士に、未だに出願権利化のみに拘り続けている特許事務所10に、果たして中小企業の経営者の側に立ったアドバイスがきちんとできるものだろうか。今更こ

こで言うまでも無く、中小企業の彼らは金もうけをしたいのであり、自らの投資に対するリターンを大きくすることを常に考えている。だいたい、「商売上手」や「経営上手」になりたいと願っているのだ。

また、「標準」といったものが新たに弁理士の標準業務となったにもかかわらず、これに積極的に当たらない弁理士が少なからず存在することを、一体どのように考えればよいのであろうか。ほぼ確実に、目の前にチャンスがあるのである。

もう一度言うが、かの有名な「我、鳥獣に非ず」の内容は、「時期を掴めばゆるがせにすることなかれ」と言われています。・・・地位も無く財も無き身でありながら、この機会を掴もうとしない者は、目の前の餌を喰うことしかできぬ鳥獣と同じです。人間として出世する機会があるのに出世の努力もせず、貧乏に甘んじ、世間に背を向けて富貴を恨み、うぬぼれて高潔とおさまっているのは、人間の本性に反するものです。」というもののなのである。

2. 成功の素質を持っている人々

ところで、人間の顔に色々な顔があるように、脳も色々である。お酒に強い人と弱い人とが居るように、生まれつき記憶力の良い人と悪い人が居る。「すぐにもらい泣き」してしまうような人は、人間の脳の中にある「ミラーニューロン」(別名「共感する脳」)という神経細胞が発達しており、共感する力が極めて強いと言える。人が痛がるのを見て自らが痛がるような人物は、人から見れば「自分のことでもないのに、バカじゃない?!」と思われるかもしれないが、その能力が強いだけである。

そうした人は、成功者とともに行動し、成功者の真似をするだけで成功する(逆に、変な人につけば、失敗する)。そうした脳の持ち主は、成功者とともに行動し、成功者の真似をするだけで、脳が勝手に成功者の振る舞いをコピーして、自己イメージに重ね合わせて、自然に行動や結果に反映させていくのである。したがって、そうした「共感する脳」の持ち主というのは、付き合う相手を慎重に選ぶ必要がある。それは、付き合う相手を間違えると、その人生があっという間に暗転してしまうことになるからである。

ここで、“楽観主義者”と言われる人物には、実は、「やれば、できる」と考えているタイプと、「何